



## 仲良く一手一つに 成人の歩みを

11月大教会教会長会議

立教188年11月22日

大教会長 片山 幹太

本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268

天理教本島大教会

電話 0877-27-3321 (代)

本島通信編集室 R251124-1128-15

奈良県天理市指柳町270-1

本島詰所 〒632-0093

電話 0743-63-1571 (呼)

<https://www.honjima.com>

Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間

【11月1日～12月31日】

朝づとめ 午前6時45分

夕づとめ 午後6時00分

私は朝夕おつとめするとき、手作りのクッションをお尻に敷かせてもらっています。それはなぜかといいますと、前回の斯道会別席団参るとき、少しはしやぎすぎてしまい、膝を痛めてしまったからです。その後、良くなったり、油断をすると悪くなったり、行ったり来たりしながら今日にいたります。なかなか素直に治らないことに、ちよつと心が勇めない時期もありました。

論達第四号において真柱様は冒頭「全教の心を一つにしたい」と仰せられ、締めくくりでは「世界たすけの歩みを一手一つに力強く…」とあります。ですから私は「一手一つ」ということを三年千日の主要な課題として通らせていただいております。

そんな時、御本部で私が立ち座りに苦勞している姿を見られていたある本部員の先生が声をかけてくださり、「幹太、ちよつと時間あるか？」

おさづけをさせてくれへんか？」と言ってくださったのです。そして南礼拝場でおさづけを取り次いで下さいました。

そのときにいただいた言葉が大変心にしみました。「膝はな、曲げて伸ばしてと、曲げるときは曲げる筋肉チームが頑張っているんだ。そのとき伸ばす筋肉チームは遠慮している。逆に伸ばすときは、伸ばすチームが働き、曲げるチームは休む。伸ばすと曲げるの連続動作である膝は、実は頑張っているのを見守っているのが上手く対になっている動作と言えるのだ。」

続いて先生は、「そのためには何が大事かわかるか？」と尋ねられました。先生の答えは「仲良しじゃないとあかん」とのことです。「こっちのチームとあっちのチームが仲良しじゃないと、ここは息が合わん。一手一つになれないんだ。」とお諭し

に、私の心が響いたのです。

「互い立てあい、たすけあい」ということも、頑張るときとちよつと引いて見守るときと、一手一つになるために仲良くすることが大事なのだと思います。以来、私は膝の身上も喜べるようになってきました。

真柱様の思いが論達第四号に込められていますので、年祭に向かって論達を頼りに成人の歩みを進めさせて頂きたいと思ひます。

(文責・本島通信編集室)



教祖百四十年祭

立教百八十九年一月二十六日

午前十時三十分 執行

# おぢばへ真実の心を 伏せ込もう

大教会准役員 横関茂治



只今は11月の月次祭を大教会長様を芯に、皆様方と共に陽気に勇んでつとめ終えさせて頂き誠にありがとうございます。只今より11月の祭典講話をつとめさせて頂きます。よろしくお願い申し上げます。

今年の新語・流行語大賞ノミネート語が30個発表され、「物価高」や「トランプ関税」など今年の出来事を象徴

するような言葉がある一方、まったく聞いたことがない若者言葉もあります。

その中で私が気になった言葉は「二季」です。

日本は昔から四季があり、それぞれの季節の風物や食べ物を楽しむ文化がありますが、昨今は気候変動の影響で春と秋が短くなり、夏の暑さと冬の寒さが際立っていることを言い当てている言葉のように思います。私は鼓笛隊の指導員をさせていただいております。この夏は例年に増して暑く、子どもたちの体調管理や熱中症予防に終始心を配った合宿でした。幸い大きな事故や病気もなく、無事に通らせていただくことができました。ことは、親神様・教祖のご守護に感謝を申し上げるのはもちろんであ

りますが、鼓笛隊活動にお心を寄せて下さる皆さまのおかげでもあると受け止めています。

立冬が過ぎ、これから冬本番に向かつて寒さが厳しくなります。教祖伝逸話篇には冬の寒さについて、増井りん先生の「雪の日」や、泉田藤吉先生の「やんわり伸ばしたら」の逸話が思い出されます。そして冬の寒さが特に身に迫るお話は明治19年、御年89歳の教祖が樺本分署でとお通りくださった最後の御苦勞です。抜粋して読ませていただきます。

※稿本天理教教祖伝・第九章「御苦勞」282頁から291頁を読む

教祖が警察へ御苦勞下されたのは、子供である私たち人間に一日も早く陽気ぐらしをさせてやりたい、その一念からであります。そのためにはつとめの完成が不可欠なのですが、つとめを勤めることによって教祖が官憲に連れて行かれることになるのであります。

稿本天理教教祖伝第十章「扉ひらいて」では、一日も早くつとめを完成させて世界中の人間をたすけ上げたい教祖と、その教祖の身を案じる

がゆえにつとめを勤めることができない先人先生方の苦悩と葛藤が記されており、明治20年陰暦正月26日、「を、の命を二十五先年の命を縮めて、今からたすけするのやで。」と、命を縮めて世界たすけに扉ひらいて踏み出されるまでの教祖ひながたが記されています。

私たちが今こうして何不自由なく毎日を過ごさせていただき、官憲の妨害や世間の誹謗中傷も受けることなくお道の信仰を続けさせていただけることは、まさに教祖伝に記されている通り教祖の御苦勞、先人先生方の苦悩、葛藤、また今日まで信仰をつないで下さった道の先輩方のおかげにはかならないと思います。

真柱様より諭達第四号を御発布いただいたて始まった教祖140年祭活動も、早くも残すところ2ヶ月となりました。

諭達第四号では「教祖年祭への三年千日は、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の歩みを活発に推し進めるときである。」とお示し下され、この約3年間、教祖ひながたを万分の一でもたどらせていただこうと、それぞれが心定めをされて年祭活動を進めて来られたと思います。その年祭活動も残りわずかな期間



となりました。今月は斯道会別席団  
参があり、さらに来年の教祖140年祭  
には大勢の方がご帰参くださると思  
いますが、その中で一つ心がけたい  
ことは「おちばがえり」とともに「ぢ  
ばへの伏せ込み」であります。

私ごとになりますが、8年前の4  
月から約1年間、本部修養科で一年  
講師を勤めさせていただきました。

そのとき出会ったある一期講師と  
お話したときのことです。私は深く  
考えずふと「おちばに帰ってくれば  
ご守護いただけますね」というよう  
なことを言いました。するとその先  
生は、「それは違うよ。おちばは尽  
くすところ、運ぶところであり、真  
実を伏せ込むところだよ。それを勘  
違いしている人が多い」と指摘され  
ました。

当時、私はその意味がよく分から  
なかったのですが、今考えると深い  
お話だったと思います。

おちばは、親神様がこの世元初ま  
り人間を創造してくださった地点で  
あり、親神天理王命様の神名が授け  
られお鎮まりくだされているところ  
であり、よろづたすけのつとめ場所  
であります。おちばがえりすれば、  
親神様・教祖はきつと「よう帰って

きたな」と喜んで下さることでは  
う。それだけでも大きなお土産をい  
ただけることでしょう。

しかしその先生が仰りたかったこ  
とは、ただおちばがえりするだけで  
はなく、そこに何か一つ真心を伏せ  
込ませていただく。それが心をたす  
けていただける大切なことなのだ  
と教えてくださったのだと思います。

行為おこなひはなんでもいいと思います。  
トイレ掃除でも、廻廊拭きでも、草  
引きでも。御本部では私たちが伏せ  
込みやすいようにと、廻廊には廻廊  
拭き用の布巾を、トイレには種類ご  
との雑巾を用意してくださっていま  
す。またそれぞれの土地所めずらし  
いものを御供させていただくことも  
いいかもしれません。

やしきハかみのでんぢやで  
まいたるたねハみなはへる  
こゝはこのよのでんぢなら  
わしもしつかりたねをまこ

(みかぐらうた・七下り目)

とお教えくださっています。おちば  
に伏せ込ませていただく、また運ば  
せていただく。そのことによって伏  
せ込んだ種がやがて土地処に帰った  
際に、匂と共に芽吹いて大きなご守  
護をいただける元になるのだと思

ます。

また逸話篇において教祖は、  
「習いにやるのでもなければ、教  
えに来てもらうのでもないで。こ  
の屋敷から教え出すものばかりや。  
世界から教えてもらうものは、何  
もない。この屋敷から教え出すの  
で、理があるのや。」(稿本天理教教祖  
伝逸話篇五三「この屋敷から」より)

とも仰せられています。

おちばでは基礎講座を始め、修養  
科、教人資格講習や教会長資格検定  
講習、さらに天理教校など、教えを  
学ぶ場を各種設置してくださってい  
ます。

修養科では「ここは陽気ぐらしの  
生き方を学ぶところですよ」と、常々  
教えられています。また専修科や本  
科では、教えを専門的に深く学ぶこ  
ともできます。

おちばで学んだ者、伏せ込んだ者  
が、陽気ぐらしの生き方を土地処で  
実践して、また一人でも多くの方を  
お誘いしておちばへお連れし、お道  
の教え、陽気ぐらしの生き方を知っ  
ていただく。おちばはそのような場  
所でもあります。

教祖140年祭まであと2ヶ月、年祭  
活動も佳境を迎えようとしておりま

すが、一人でも多くの方に声をか  
けて、おちばへお連れするとともに、  
おちばで伏せ込んでくださる方、お  
ちばで学んでくださる方をお誘いす  
るのも大切なことだと思います。

匂を逃さず声かけができるように  
なるためにも、そのことを常に心が  
けながら残りの年祭活動を精一杯つ  
とめさせていただき、教祖140年祭当  
日には大勢の方におちばにお帰りい  
ただいて、教祖にお喜びいただける  
よう勤めさせて頂くことをお誓いし、  
今日の話とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございます。

(文責・本島通信編集室)



十一月月次祭

祭典役割

神 殿 講 話	胡 三 味 琴 線 弓	小 琴 鼓	す り が ね 鼓	太 鼓	拍 子 木	ち ゃ ん ぽ ん 笛	て を ど り	地 方	座 り づ と め	祭 主	指 圖 方	村 田 輝 夫 ・ 大 矢 万 三 ・ 古 井 信 ・  生 (順 不 同)					
										大 教 会 長	老 木 邦 光		扨 者	片 山 勲	平 井 真 治 郎	賛 者	横 山 正 次
										平 井 真 治 郎	片 山 勲		大 上 道 徳 ・ 奥 村 龍 夫 ・ 長 濱 充 憲	大 教 会 長 ・ 岩 橋 慶 三 ・ 牧 野 道 昭 ・ 會 長 夫 人 ・ 前 會 長 ・ 長 尾 澄 子	茶 屋 原 良 昭 ・ 横 山 富 明 ・ 高 垣 光 治 ・ 伊 東 康 成 ・ 雲 庵 春 彦 ・ 片 山 直 明 ・ 長 尾 啓 子 ・ 平 井 幸 子 ・ 雲 庵 ま ち 子	雅 樂 奉 仕 者 ・ 文 岡 育 則 ・ 池 田 恒 治 ・ 香 川 高 範 ・ 伊 東 賢 太 郎 ・ 鎌 田 康 典 ・ 香 川 靖 幸 ・ 白 垣 俊 生	
										肥 後 信	大 上 道 徳 ・ 奥 村 龍 夫 ・ 長 濱 充 憲		篠 原 丕 王 ・ 永 島 宗 行 ・ 後 藤 正 治 ・ 片 山 孝 代 ・ 岩 橋 元 実 ・ 原 口 和 子	岩 橋 秀 一 ・ 吉 田 知 彦 ・ 香 川 勝 巳 ・ 窪 田 卓 夫 ・ 江 草 克 二 ・ 牧 野 近 弘 ・ 高 垣 洋 子 ・ 梅 木 澄 代 ・ 横 関 明 美			

十一月月次祭祭文

立教百八十八年十一月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天  
理王命の御前に天理教本島大教会長片山  
幹太慎んで申し上げます

親神様にはこの世人間をお創め下されて  
より片時も絶える事のない十全の御守護  
をもってお守りお育て下さり旬刻限と共に  
にこの世の表にお現れになりよろづ委細  
を明かして下さり一条の道をつけられて  
よりさまたまなふしを通して成人をお促  
し下されつつ陽気ぐらしへとお連れ通り  
下さいます御慈愛の程は誠に有難く勿体  
ない極みでございます

その中にも今日の吉き日は当大教会の月  
毎の御祭り日を迎えましたので只今から  
役目に与るおつとめ奉仕者一同心を澄ま  
せて一手一つに陽気に勇んで座りづと  
め・てをどりを勤め十一月の月次祭を執  
り行わせて頂きます

御前には親を慕い今日を楽しみに国々か  
ら帰り集いました教え子達が日頃賜る  
数々の御守護に御礼申し上げ共におうた  
を唱和して尚も一筋にお継りする状をも  
御覧下さいまして親神様にもお勇み下さ  
いますようお願い申し上げます

私共を始め教会長ようばく信者一同は去  
る十月秋季大祭に於ける真柱様のお言葉

を目標に来る教祖百四十年祭に向う年祭  
活動の仕上げに励ませて頂く決意でござ  
います

何卒至らぬ点届かぬ所は幾重にもお仕込  
み下さいまして一日も早い世の治まりと  
日々御恩報じにつとめさせて頂く一同の  
真実をもお受け取り下さり一手一つに睦  
み楽しむ世の状へとお導き下さいますよ  
う一同と共に慎んでお願い申し上げます  
(原文のまま)

入社祭

(立教188年11月22日)

▼攝津△鎌田陽まり ▼本備前△伊  
東さら ▼シートタック△長尾幸平△  
長尾永

【計4名】

11月22日(土)

【香川県丸亀市】

天 候 晴  
最低気温 6.7℃  
最高気温 16.7℃  
平均気圧 1024.6 hPa  
平均湿度 65 %  
平均風速 1.6 m/s  
日照時間 9.8 時間  
降水量 0.0 mm



## 仙峰分教会50周年

仙峰分教会(向所千夏会長、

仙台市太白区)は昭和50年11

月26日に旧岩峰分教会より任

命・移転・改称してから今年

は50周年の節目に当たること

から、11月3日に大教会長を

迎え、月次祭に併せて「創立

50周年記念祭」を執り行いま

した。参拝者約30名。

挨拶に立った大教会長は

「50周年は次の100周年への折

り返し地点といえます。六下

り目に『あふぎのうかゞひ』と

あるように、自らの心がたす

け一条に向かっているか、教

祖の教えに伺いを立ててみま

しょう」と述べられました。



## 計報

## 高島清弘氏



高島清弘氏(本島大教会役員・

撫川分教会6代会長)は去る10

月30日午前3時21分お出直しに

なりました。享年92歳。

葬儀はみたまうつしが10月31日

午後7時より、告別式が11月1

日午前10時より、本島大教会に

おいて大教会長斎主のもと執り

行われました。

高島清弘氏略歴 昭和8年7月

18日生まれ。昭和30年4月27

日、おさづけの理拝戴。昭和34

年7月より大教会ふしん方実施

部庶務係・道具係。昭和42年3

月20日、内藤百年子と結婚。昭

和43年6月16日、教会長資格検

定合格。同年6月28日、教人登

録。昭和46年11月22日、大教会

神殿奉仕人。昭和57年10月21日、

大教会役員登用。昭和63年3月

26日、撫川分教会6代会長拝命。

平成7年1月8日、撫川分教会

神殿落成奉告祭。平成13年5月

22日、本島詰所主任。平成14年

9月22日、宗教法人天理教本島

大教会責任役員。平成16年4月14日、大教会史料集成部及び本島図書館長。立教180年2月26日、撫川分教会長辞職。教会長在職期間29年間。大教会神殿講話を8回勤められました。本部詰員。

## 岡本眞砂子姉



岡本眞砂子姉(前のオープン教

会5代会長)は去る10月31日午

前10時6分(ハワイ時間)お出直

しになりました。享年96歳。

葬儀はみたまうつしが10月31日

に営まれました。告別式は令和

8年1月13日午後1時(ハワイ

時間)より斎藤カーレン・ホノ

ルル教会長斎主のもと、家族と

親しい友人で執り行われる予定

です。

岡本眞砂子姉略歴 昭和4年4

月27日生まれ。昭和26年12月14

日、おさづけの理拝戴。昭和26

年12月27日、修養科第126期修了。

昭和43年10月24日、夫の岡本一

雄主が旧カワイ教会からオーブ

ン教会に改称して4代会長就任。

昭和53年5月19日、教会長資格

## 大西わきえ姉



大西わきえ姉(大教会役員夫人、

カリフォルニア教会前会長夫

人)は去る11月13日午後7時40

分(ロサンゼルス現地時間)お出

直しになりました。享年73歳。

葬儀はみたまうつしが11月13日

午後8時より、告別式は11月23

日午前10時30分より天理教アメ

リカ伝道庁において岡崎マロー

ン役員斎主のもと執り行われま

した。

大西わきえ姉略歴 昭和27年10

月18日生まれ。昭和45年8月18

日、学生生徒修養会後期修了。

昭和46年1月31日、おさづけの

理拝戴。同年5月10日、教人登

録。昭和56年12月27日、修養科

第486期修了。昭和58年5月20日、

## 中路純氏



中路純氏(前の攝桂分教会2代

会長)は去る11月16日午後8時

15分お出直しになりました。享

年87歳。

葬儀は11月18日午後2時より片

山直明本攝分教会長斎主のもと

家族葬で営まれました。

中路純氏略歴 昭和13年1月6

日生まれ。昭和35年9月27日、

修養科第231期修了。昭和38年10

月26日、おさづけの理拝戴。昭

和39年10月16日、教会長資格検

定合格。同年11月11日、教人登

録。平成3年3月26日、攝桂分

教会2代会長拝命。平成3年11

月22日、大教会神殿奉仕人。立

教184年9月10日、攝桂分教会本

部お戻し。教会長在職期間30年。

大西知と結婚。昭和60年10月26日、夫の大西知がカリフォルニア教会4代会長就任。立教173年7月22日、婦人会本島支部委員。アメリカ伝道庁婦人会委員。今年の9月22日、大教会神殿講話を米国より動画で勤められました。

本田中分教会創立100周年記念祭

本田中分教会(佐々木治道会長、香川県三木町)は大正14年11月3日に設立のお許しを戴いてから、今年が創立100周年を迎える節目に当たり、併せて「神殿増築及修築・内部改造並屋根葺替願」の理のお許しを本年10月25日に戴きました。工事は予定通り竣工しましたので、11月23日午前10時より大教会長夫妻(随行・西山道教役員)を迎え、「創立100周年記念祭並びに屋根葺替鎮座奉告祭」を執り行いました。参拝者48名。



佐々木治道会長は今年4月、

タクシー業務中に脳出血を発症し、緊急入院するふしをお見せいただいております。挨拶に立った大教会長はこのことに触れられ「会長が倒れたとき、友達がたまたま隣に居たこと。場所は駐車中であったこと。お客様を乗せていない時だったこと。つまり人・場所・時が立て合った大きな事情を小難に治めていただいたふしだったと悟ります。本田中分教会創立100周年は、白紙に還り一より始める句にとらえ、教会の元一日に立ち返り、心新たに一手一つに歩み出しましょう」と述べられました。

続いておつとめが陽気に勤められました。

奉告祭に先立ち、10月28日に親神様・教祖お目標様(めじょう)ならびに祖霊様を客間にお遷しする遷座祭を行い、工事竣工後、お許しいただいた通り11月22日に神殿神床への鎮座祭を滞りなく執り行いました。

布教部報告(11月分) 数字は本年の提出回数です

青年会マンスリー隊

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では11月24日、本島詰所においてマンスリー隊(第14回)を実施し17名が参加。斯道会別席団参受入準備として、駐車場の白線引き等を行いました。

統計(10月1日~31日)

教会名	初席	中席	参り座	修繕料	教人講習	検定講習
本島		1				
本都	1	2				
本恵						
本千代	1		1			
本新田						
赤峰		1				
南峰		1			1	
吉峰						
神峰		1				
霊峰		3				
マリーナ				1		
カリフォルニア		1				
シータック						1
合計	2	10	1	1	1	1

にをいがけ名簿提出教会(11月)		
本島 9	本千治 10	本新田 10
本樺太 11	本千恵 8	本九台 4
本田中 7	本浜陽 4	赤峰 11
本倉岡 11	本攝 10	雅峰 11
本樺 11	攝津 11	南峰 11
本室 10	攝泉 10	神峰 10
渋谷 9	本太 11	豪峰 11
代々木 8	本萩 10	倉峰 10
本萬代 9	琴浦 7	栄峰 6
本都 10	安藝本中 6	大雄峰 9
本京 11	本備前 11	雄福峰 9
本東 11	本迪 6	栄森峰 10
本草 11	本府中 10	栄星峰 10
本三 11	沖浦 11	栄東峰 10
本恵 11	本亀 8	霊峰 11
本恵山 8	本清水 8	實峰 2
本恵明 11	崇徳 11	大隅聖峰 10
本静濱 11	与島 9	大駿峰 11
本静森 9	本勇 4	別峰 9
本日米 10	本高 11	大英峰 10
本米 11	本宣道 10	文峰 8
本米里 11	本九 11	鶴峰 10
本米浜 11	本小倉 8	都峰 11
本千代 11	本陽山 11	仙峰 11
本千賀 10	本肥港 8	ハリウッド 4
計 75 教会 704 名		

おさづけ取次報告教会(11月)		
本島 11	本千治 8	本肥港 10
本樺太 11	本千恵 9	本新田 11
本田中 7	本浜陽 4	本九台 5
本倉岡 11	本攝 10	赤峰 11
本陸奥 9	攝津 11	雅峰 11
本樺 11	攝泉 11	神峰 10
本室 10	本邦 9	豪峰 10
渋谷 9	本太 11	倉峰 10
代々木 9	本萩 10	栄峰 6
本萬代 10	本岡 9	大雄峰 9
本都 10	琴浦 3	雄福峰 10
本京 11	本福 4	栄森峰 7
本東 11	本山海 4	栄星峰 11
本道盛 11	安藝本中 8	栄東峰 7
本草 11	本備前 11	霊峰 10
本三 11	本迪 9	實峰 2
本恵 10	沖浦 11	大隅聖峰 10
本恵山 11	本亀 9	大松峰 10
本恵明 11	本清水 9	大駿峰 11
本静濱 11	崇徳 11	別峰 9
本日米 9	与島 8	大英峰 10
本浜 11	本廣 3	肥後八峰 7
本米 11	本勇 8	鶴峰 10
本米臺 8	本高 11	都峰 10
本米里 11	本宣道 6	仙峰 11
本米浜 11	本九 11	S.P. 5
本千代 11	本小倉 8	ハリウッド 8
本千賀 11	本陽山 11	
計 83 教会 2,173 回		



## 事情はいび

(立教188年11月26日)

### シータック教会

任命願

新任教会長 長尾照明  
ながおてるあき

臨時祭典願

就任奉告祭 立教188年12月14日

### 赤峰分教会

附属建物増築願

教会長 向所隆文

以上

## おさづけの理拝戴

(立教188年10月分)

本新田 窪田教一

【計1名】

## 修養科第二〇二〇期修了

(立教188年10月27日修了)

マリーナ イワハシ・メイ

【計1名】

## 教人資格講習会修了

(立教188年10月11日付)

吉峰 船木幸美

【計1名】

## 教会長資格検定合格

(立教188年10月18日付)

シータック 長尾照明

【計1名】

## をびや許し

(立教188年10月分)

本九 雲庵瑞穂

鶴峰 尾関夕希子

【計2名】



編集日程の都合により、「斯道会別席団参」関連記事は来月号に掲載いたします。

【本島通信編集室】

## 大教会長動向

▼12月(予定)▲

3日、香川教区役職委員会議

6日、本静濱分教会

会長就任奉告祭

9日、16日、海外巡教

14日、シータック教会

会長就任奉告祭

22日、大教会月次祭執行

23日、河原町大教会・越乃國

大教会参拝

24日、修養科門出まなび

25日、かなめ会委員会

26日、本部月次祭参拝

27日、かなめ会

30日、神殿奉仕当番

以上

## ろくぢ会

(立教188年10月11日分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太

▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉

▼安本浜△片山清枝・正枝・誠

▼崇藝本中分教会△池田こみち

▼崇徳分教会△高垣ひかり

▼本高分教会

▼ポートランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次

ご芳志に厚くお礼申し上げます

## すき間のおはなし

こ幼少の頃にあったもの

長岳寺(天理市柳本町)は山辺の道の真ん中に位置し、境内には浄土式庭園の池があり、初夏はツツジ、晩秋は紅葉の美しさが特に見事で、多くの参拝者が訪れています。

この長岳寺の本尊《阿弥陀三尊像》は平安末期の仁平元年(1151)の作と判明していて、玉眼を用いた最古例の仏像として知られています。

この約100年前、天喜元年(1053)仏師定朝が制作した平等院鳳凰堂本尊の《阿弥陀如来像》が「仏の本様」とされ、以後「定朝様」と称されて長く仏師たちの規範となりました。その流れを受けて、奈良仏師たちがさらに写実性を求めて新たな表現の可能性を切り開こうとした技法の一つが、仏像に玉眼を嵌めることでした。

定朝の仏像の表情は、内省的で深い瞑想に入った静謐性が特徴なのに對し、奈良仏師の玉眼の仏像は、参拝者を見つめ、教え諭し、救おうとされる意志が伝わってくるようです。

この奈良仏師から後代、運慶や快慶といった日本最高峰の仏師集団「慶派」が生まれます。それらの源流に、長岳寺の《阿弥陀三尊像》はあると言えるのです。

さて、この本尊を奉る現本堂は天明3年(1783)の再建です。寛政10年(1798)、教祖がお生まれになったとき、この本堂は落成後16年目で、すでに存在していました。長岳寺から三昧田村まで約2・4キロ、歩いて35分の距離です。



教祖のご生家である前川家は藤堂藩で菩提寺は浄土宗、長岳寺は柳本藩で真言宗ですので、幼いみき様が長岳寺を訪れる可能性は皆無と言えましょう。けれども教祖がご幼少のころ、すでにその本堂は存在していた。そのことがとても懐かしく思われて、本堂の古い柱をつい撫でてみたくなります。(むかいじよ)

## 大教会からの お知らせ

11月22日教会長会議連絡事項

### 教祖百四十年祭

【教会本部】

立教189年1月26日10:30執行

—1月26日のうごき—

- 朝づとめ：午前7時
- 夕づとめ：午後5時15分
- 神殿おたすけ  
時間：14:30 受付  
場所：神殿西お守所(西礼拝場南側)
- をびや許し・おももり下附  
時間：8:00～9:30  
14:30～16:30  
場所：第二御用場
- 別席  
1/26 別席・お誓いはありません
- 手荷物一時預かり所  
時間：8:00～16:00  
場所：三島公会堂  
※境内掛本所・インフォメーションセンターでの手荷物預かりは行いません。

### 教祖140年祭帰参報告書

【総務部】

- 提出締切：12月22日・大教会  
※直轄教会ごとに取りまとめ、全教会  
ご提出ください。
- ※本島詰所に寄らず参拝される方も含  
め、全員の氏名を記入してください。
- ※1/24～27 詰所食券の変更取消期  
限：1月22日
- ※1/26 昼食(おにぎり弁当)の変更取  
消期限：1月10日
- ※本島詰所駐車場を利用する車両台  
数をご記入ください
- ※帰参報告書(所定用紙)は、本島ドッ  
トコムからダウンロードできます。

### 青年会マンスリー隊

【青年会本島分会】

- 実施日：12月21日(日)本島大教会  
1月18日(日)本島大教会

### 教祖140年祭教会長ご招宴

【教会長ご招宴担当】

- ご招宴日：  
1月28日、29日、30日、2月1日  
—当日の流れについて—
- ◇ご招宴会場：天理大学杣之内体育館
- ◇当日の集合時間：午前11時、本島  
詰所写真の間
- ◇諸注意連絡後、バスに乗車し、真  
南棟臨時乗降場へ向かいます。
- ◇ご招宴時間：正午から午後1時半
- ◇帰りは真南棟臨時乗降場まで徒歩移  
動の後、迎えのバスに乗車します。
- ◇欠席する教会長はお早めに担当(平井  
真治郎役員)までお知らせください。

### 特別展示『おやさま』

【教会本部】

- 教祖140年祭特別展示『おやさま』  
教祖ゆかりの品、写真パネル展示など
- 開催期日：12月6日(土)、7日(日)、13日(土)、  
14日(日)、20日(土)、21日(日)、25日(木)、  
26日(金)  
立教189年：1月24日(土)、25日(日)、  
26日(月)、27日(火)
- 開催時間：午前10時～午後3時(12  
月26日は午後1時より開催、1月  
26日は午後2時30分から4時30  
分までの開催)
- 開催場所：おやさまやかた南右第2棟

### 鼓笛隊教祖140年祭御供演奏

【本島団鼓笛隊】

- 本島団鼓笛隊  
「教祖140年祭OB/OG合同御供演奏」
- 日時：立教189年1月25日(日)  
14時30分
- 場所：本部南参道(元の黒門前)
- 対象：現役の隊員、指導員、鼓笛隊  
OB&OG
- 現役隊員の問合せ先：佐藤道子部長
- OB&OGの問合せ先：石神和則  
(090-8030-4012)

### 会計部より

【会計部】

- 立教189年お鏡料・御神酒料は  
一教会2,000円以上です。本年  
12月22日までに、大教会会計部へ  
お納め下さい。

### 鼓笛隊北海道50周年総会

【本島団鼓笛隊】

- 本島団鼓笛隊  
「北海道地区創立50周年記念総会」
- 開催日：立教189年1月11日(日)
- 会場：本樺分教会
- 派遣指導員：大西知、佐藤道子、鎌  
田康典、香川靖幸

### 学修・大学の部

【本部学生担当委員会】

学生生徒修養会・大学の部

- 期間：令和8年3月4日(水)～  
3月8日(日)(4泊5日)
- 受講対象：①令和7年12月25日現  
在、大学・短期大学・大学院・専  
門学校・高等専門学校(4年以上)に  
在学している者。②全期間を通し  
て受講できる者
- 申込期間：令和7年12月25日～  
令和8年2月15日
- 受講御供：10,000円(当日まで詰所  
に納めてください)
- 詳細につきましては、雲庵春彦  
(090-2515-8039)、横関茂治  
(090-1138-1690)までお問合  
せください。

### 学修・高校卒業生コース

【本部学生担当委員会】

学生生徒修養会・高校卒業生コース

- 期間：令和8年3月10日(火)～  
3月12日(木)(2泊3日)
- 受講対象：①令和7年度高等学校  
卒業予定者。②全期間を通して受  
講できる者
- 申込期間：令和7年12月25日～  
令和8年2月15日
- 受講御供：5,000円

### 12月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

&lt;大教会・食堂ひのきしん&gt;

- 期間：12月21日～22日

- 派遣教会：渋谷

&lt;詰所・食堂ひのきしん&gt;

- 期間：12月25日～26日

- 派遣教会：安藝本中、本九

<https://www.honjima.com/>